

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

1. 新設組織の入学定員設定の考え方及び定員を充足する見込み……………	2
(1) 新設組織の入学定員の考え方……………	2
(2) 定員を充足する見込み……………	2
①学生確保の見通しの調査結果……………	2
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析……………	2
③同分野を有する競合校の状況……………	4
ア 競合校の選定理由……………	4
イ 競合校の入学志願状況等……………	4
ウ 学生納付金等の金額設定の理由……………	5
④既設組織の定員充足の状況……………	5
2. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果……………	5
3. 社会的要請・人材需要について……………	6
(1) 新設組織で要請する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析……………	6
(2) 人材需要に関するアンケート調査等……………	6

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 新設組織の入学定員の考え方及び定員を充足する見込み

(1) 新設組織の入学定員設定の考え方

新潟大学医学部医学科では、教育目標の一つに「地域の医療に貢献するとともに、国際的に活躍できる人材の育成」を掲げており、地域の医師不足に係る切実な要請に応え、新潟県内の将来の医療を担うという強い意志をもった者を対象とした「地域枠」による入学定員増を実施している。近年では新潟県内の臨床研修医数は徐々に増加してはいるものの、新潟県はいまだに深刻な医師不足の状況である。

令和7年度では、地域枠として40名までの臨時定員増が認められたことから、「入学定員140名」「収容定員640名」に変更し、新潟県と連携しつつ、地域における医師の確保ならびに地域医療を担う医師養成を推進する。

(2) 定員を充足する見込み

① 学生確保の見通しの調査結果

本学医学科の令和6年度オープンキャンパスにおいて、参加者804名に対してアンケート調査を実施し、522名より回答を得た。本アンケートの設問「参加の目的について、当てはまるものすべてにチェックしてください。(複数選択可。)」においては、表1のとおり、参加者115名から「地域枠に興味があるため」の回答があり、このことから、新潟県地域枠への関心が高いことが確認できる。

<表1> 医学部医学科オープンキャンパス2024・アンケート調査

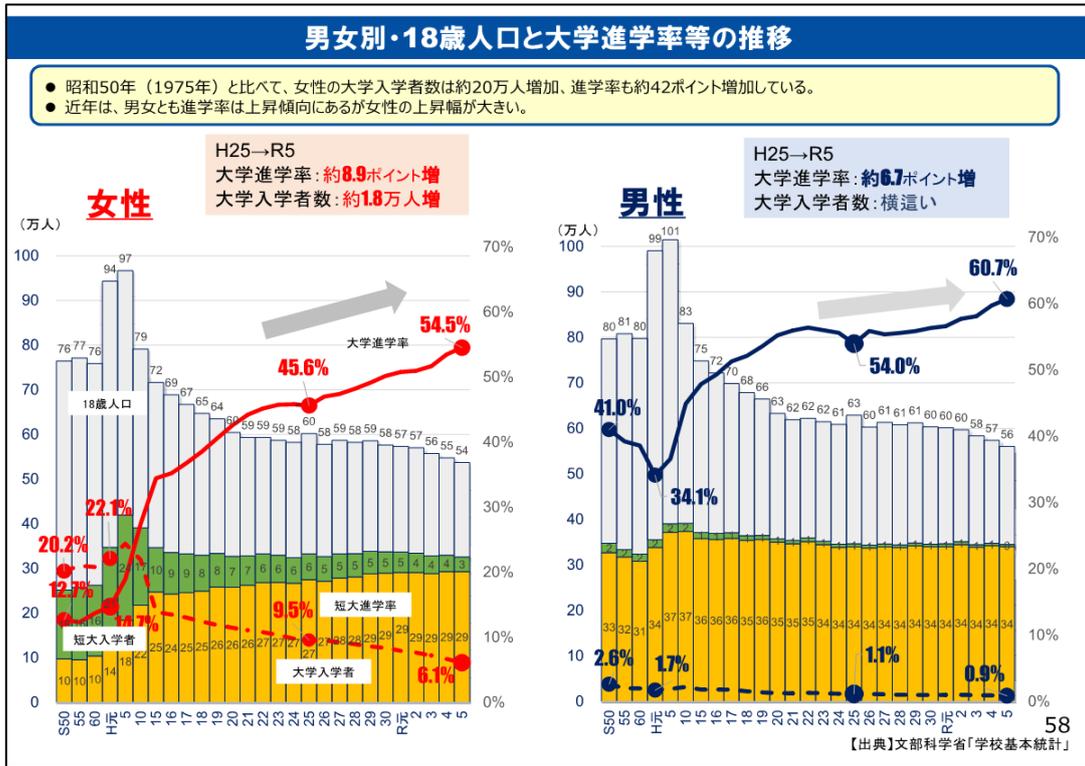
【質問】 参加の目的について、当てはまるものすべてにチェックしてください。(複数選択可。)
【回答】 <ul style="list-style-type: none">・新潟大学医学部医学科を受験するつもりで、大学の様子を知っておきたいため(234名)・医学部医学科を受験するつもりで、新潟大学医学部医学科と他大学を比較するため(245名)・新潟大学を受験するつもりで、医学部医学科の受験を検討するため(79名)・地域枠に興味があるため(115名)・その他(34名)

② 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

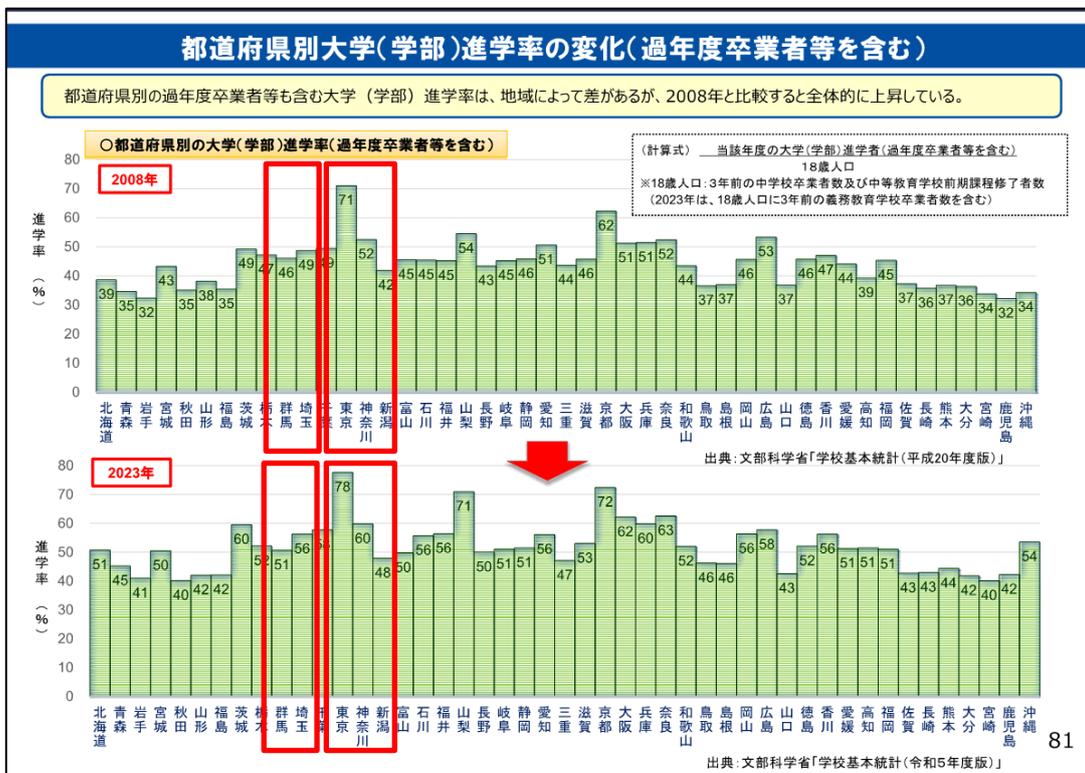
全国の18歳人口の推移においては令和9年度までは横ばいであることが予測されており、一方で、表2及び表3のとおり、大学進学率は上昇している。

また、本学医学科の志願者の出身校が所在する都道府県上位5つについては、表4のとおりであるが、これら新潟県及び各地域の大学進学率においても、表3のとおり、平成20年度と比較して上昇している。このことから、令和7年度に新潟県地域枠による入学定員の臨時定員増を実施した場合においても、需要を見込むことができる。

<表2> 男女別・18歳人口と大学進学率等の推移



<表3> 都道府県別大学(学部)進学率の変化(過年度卒業生等を含む)



<表4> 本学医学科の志願者出身高校の所在都道府県上位5(令和5年度)

	1	2	3	4	5
都道府県	新潟	東京	神奈川	埼玉	群馬
志願者数	198	103	25	20	18

③同分野を有する競合校の状況

ア. 競合校の選定理由

新潟県の隣県（山形県，群馬県，福島県，長野県，富山県）の国立大学のうち，医学の学位を授与している山形大学医学部医学科，群馬大学医学部医学科，信州大学医学部医学科，富山大学医学部医学科を競合校とした。

イ. 競合校の入学志願動向等

山形大学医学部医学科，群馬大学医学部医学科，信州大学医学部医学科，富山大学医学部医学科における過去3年間の入学志願状況等について，表5のとおり，いずれの大学においても入学定員を充足できている。また，本学医学科の地域枠においては，3倍を超える志願者倍率を保っており，医師養成に関し大きな需要があることが確認できる。

<表5> 新潟大学医学部医学科及び競合校入学志願動向

	年度	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員充足率
新潟大学 医学部医学科	令和4年度	133名(33名)	511名(125名)	3.84倍(3.8倍)	429名(125名)	137名(33名)	133名(33名)	100%
	令和5年度	140名(40名)	542名(155名)	3.87倍(3.9倍)	460名(155名)	149名(40名)	140名(40名)	100%
	令和6年度	140名(40名)	601名(185名)	4.29倍(4.6倍)	493名(185名)	145名(40名)	140名(40名)	100%
	3年平均			4倍(4.1倍)				100%
山形大学 医学部医学科	令和4年度	113名(8名)	769名(36名)	6.8倍(4.5倍)	537名(22名)	121名(8名)	113名(8名)	100%
	令和5年度	113名(8名)	829名(27名)	7.33倍(3.4倍)	605名(23名)	116名(8名)	113名(8名)	100%
	令和6年度	113名(13名)	769名(53名)	6.8倍(4.1倍)	490名(47名)	124名(13名)	113名(13名)	100%
	3年平均			6.97倍(4倍)				100%
群馬大学 医学部医学科	令和4年度	108名(18名)	407名(60名)	3.76倍(3.3倍)	258名(40名)	112名(18名)	108名(18名)	100%
	令和5年度	108名(18名)	397名(62名)	3.67倍(3.4倍)	290名(47名)	113名(18名)	108名(18名)	100%
	令和6年度	108名(18名)	405名(62名)	3.75倍(3.4倍)	276名(50名)	111名(18名)	108名(18名)	100%
	3年平均			3.72倍(3.4倍)				100%
信州大学 医学部医学科	令和4年度	120名(15名)	465名(-)	3.87倍(-)	396名(-)	124名(-)	120名(-)	100%
	令和5年度	120名(15名)	448名(-)	3.73倍(-)	375名(-)	125名(-)	120名(-)	100%
	令和6年度	120名(22名)	566名(-)	4.71倍(-)	398名(-)	126名(-)	120名(-)	100%
	3年平均			4.1倍(-)				100%
富山大学 医学部医学科	令和4年度	105名(25名)	299名(62名)	2.84倍(2.5倍)	247名(62名)	109名(25名)	106名(25名)	101%
	令和5年度	105名(25名)	498名(50名)	4.74倍(2倍)	348名(50名)	110名(25名)	106名(25名)	101%
	令和6年度	105名(25名)	292名(45名)	2.78倍(1.8倍)	232名(45名)	110名(25名)	105名(25名)	100%
	3年平均			3.45倍(2.1倍)				101%

表中のカッコ内の数字は地域枠で内数。

※信州大学医学部医学科は地域枠の入試情報が公開されていないため，地域枠の内数は「(-)」としている。

新潟大学医学部医学科及び各競合校の「入試統計」より抜粋

ウ. 学生納付金等の金額設定の理由

学生納付金は、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」（平成 16 年 3 月 31 日 文部科学省第 16 号）で定める標準額に基づき、「国立大学法人新潟大学授業料その他の費用に関する規程」により、以下のとおり定める。

入学料 282,000 円
 授業料 535,800 円

④既設組織の定員充足の状況

本学医学科の収容定員の増加は、地域社会の要請に応え、地域における医師の確保ならびに地域医療を担う医師の養成を図るものであり、入学者の選抜は、新潟大学医学部医学科学校推薦型選抜「地域枠」（出願要件は、新潟県を含む全国の高等学校出身者）によるものとし、「一般枠」と「地域枠」のそれぞれに募集人員を設け、地域枠希望者を区別して選抜を行う。

表 6（新潟大学医学部医学科における過去 5 年間の入試状況）で示すとおり、本学医学部医学科における過去 5 年間の志願倍率は「一般枠」「地域枠」いずれも 3 倍を超えており、また、地域枠の歩留率については過去 5 年間で 100%を維持していることから、定員充足の見込みは高いと判断される。

<表 6>新潟大学医学部医学科における過去 5 年間の入試状況

入学年度	全体									学校推薦型選抜(推薦入試)【地域枠のみ抜粋】									
	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	辞退者数	入学者数	歩留率	定員超過率	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	辞退者数	入学者数	歩留率	定員超過率	
令和2年度	122	490	4.02	419	123	1	122	99.2%	1.0	令和2年度	22	85	3.86	85	22	0	22	100%	1.0
令和3年度	127	434	3.42	382	131	4	127	96.9%	1.0	令和3年度	27	89	3.30	89	27	0	27	100%	1.0
令和4年度	133	511	3.84	429	137	4	133	97.1%	1.0	令和4年度	33	125	3.79	125	33	0	33	100%	1.0
令和5年度	140	542	3.87	460	149	9	140	94.0%	1.0	令和5年度	40	155	3.88	155	40	0	40	100%	1.0
令和6年度	140	601	4.29	493	145	5	140	96.6%	1.0	令和6年度	40	185	4.63	185	40	0	40	100%	1.0
(過去5年平均)	132	516	3.89	437	137	5	132	96.6%	1.0	(過去5年平均)	32.4	128	3.89	128	32.4	0	32.4	100%	1.0

2. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

令和 6 年度新潟大学医学部医学科オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、人数制限を設けた来場型オープンキャンパスとインターネットを活用した Web 型オープンキャンパスをハイブリッドで実施した。また、新潟県主催「地域医療を担う医師を目指す医学部志望者向け大学入試等説明会」を開催するとともに、新潟県内の高校（公立、私立）に働きかけ、医学科への進学を真剣に考える学生に特化した「新潟大学医学部医学科体験講座」において地域枠への進学も含めた医学科への進学を促す等、入学者の確保に努めている。このほか、医学科進学実績の高い県外高校での説明会の開催や医学部進学フォーラムなどに参加している。

これらの取組は、高校生に対し地域枠への進学を含めた本学医学科への進学モチベーションを高め、地域医療に従事する明確な意思をもった学生の確保に繋がると考えられる。

3. 社会的要請・人材需要について

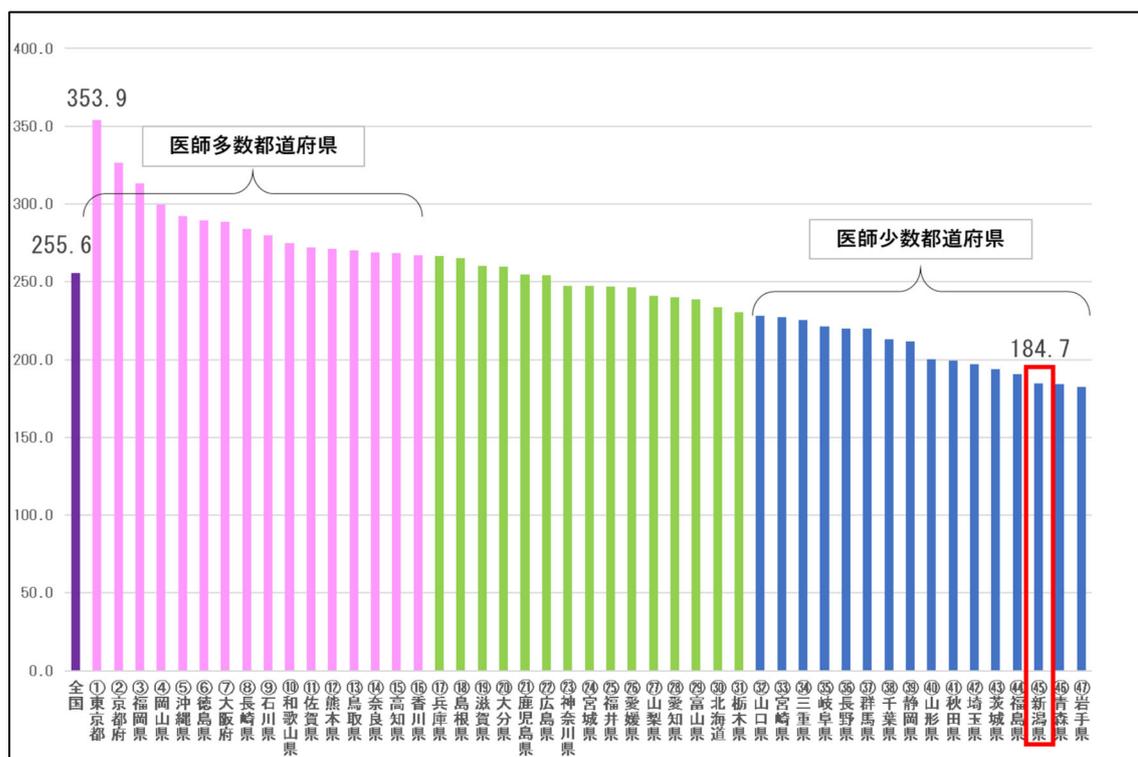
(1) 新設組織で要請する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

近年の急速に進行する少子高齢化などに伴い、医療分野におけるニーズは日々、高度化・多様化している。新潟県は、県土が広大なうえ過疎や豪雪等の地理的特性を有することに加え、医師の都市部への集中に伴う地域的な偏在もあり、医師不足が深刻な問題となっている。

(2) 人材需要に関するアンケート調査等

新潟県の医師偏在指標については、表7（都道府県別医師偏在指標）のとおり、184.7（全国255.6）で、全国45位と最低レベルである。また、表8（必要医師数・医師確保の目標）のとおり、新潟県では2036年時点での必要医師数に対して、現在、1,500人以上の医師が不足しており、新潟県は地域枠を要件とした臨時定員増の継続を希望している。このことから、本学医学科の収容定員の増加は、地域的、社会的な人材需要のニーズを的確に踏まえたものであると判断できる。

<表7> 都道府県別医師偏在指標



新潟県「第2次新潟県医師確保計画 前期（令和6年3月）」より抜粋

<表8> 必要医師数・医師確保の目標

(単位：人)

医師数	新潟県	二次医療圏						
		下越	新潟	県央	中越	魚沼	上越	佐渡
必要医師数 (R18(2036)) (a)	6,137	530	2,681	455	1,246	421	695	127
標準化医師数 (現在) (b)	4,494	350	2,290	271	791	237	466	89
差 (a - b)	1,643	180	391	184	455	184	229	38

新潟県「第2次新潟県医師確保計画 前期（令和6年3月）」より抜粋